

さまざまなライフステージで安心して働き続けられるように

介護のための多様な制度を整備

高齢社会が進むなかで介護との両立を支援することは企業にとっても、優秀な人材に長く勤めてもらうために必要な課題です。とくに介護はライフステージの変化につれて被介護者や家族の状況によって、さまざまなニーズが生じます。そこで日本ユニシスグループでは、利用しやすい介護休暇や在宅勤務を実施するなど、それぞれの状況に合わせて働き方を選択できるよう、多様な制度の整備に努めています。

主な介護支援制度

種類	内容
介護休職	介護対象1人につき1年間まで
介護休暇	①積立特別休暇を1日単位で利用(有給) ②介護対象1人につき12日/年(無給)
短時間勤務	2時間/日(無給)まで
フレックスタイム	月内で過不足を精算。コアタイムあり
在宅勤務	原則週3日以上在宅勤務
カウンセリング	職業家庭両立アドバイザー、社員相談室、外部カウンセリングに随時相談可能

TOPICS

セミナー「もしも家族が認知症になったら」を開催

2010年12月9日、東京本社にて、ケアコンサルタントの川上由里子さんをお迎えして、日本ユニシスグループ社員向けに「もしも家族が認知症になったら」を開催しました。初めて介護を主テーマとしたセミナーでしたが、130名以上が参加し、男性が6割、年代は40～50代が9割、役員や管理職も多く出席して、いままでのワークライフバランスセミナーとは違う雰囲気となりました。

講師の川上さんからは、「認知症の基礎的知識」「早期診断の大切さ」「接し方」「認知症の予防」などについてお話がありました。家族の心構えとしては「相手の主張を受け入れ」「本人の形成している世界に合わせる」ことが大切とのこと。自分も同じように年をとっていくので、「大丈夫。お互いさま」という気持ちで接することで、認知症の症状もかなり変わってくるといいます。重



くネガティブに捉えがちな「認知症」や「介護」について、川上さんは、ご自身の体験も交えながら、明るく軽快なテンポで話してくださいました。

参加者の声

- “セミナーに参加し、介護に対する不安が少し和らぎました。”
- “認知症が予防できると初めて知りました。ケースを交えての説明は大変わかりやすかったです。”
- “認知症について再認識することが多くありました。”
- “教え込もうとしたり、説得したりすることが禁止行為だということをはっきり教えてもらえてありがたかったです。”
- “親も高齢になり、漠然と不安を抱えていました。おかげさまで、良いヒントをいただくことができました。”
- “いざという時の心構えができました。”
- “自治体からの資料を、使う側の視点で整理して話していただいたのが良かったです。”



講師
川上 由里子 様
三井不動産(株)
S&E総合研究所 ケアデザイン室
ケアコンサルタント

安心して働き続けられるよう積極的に子育てを支援

少子化への対策や社員のワークライフバランスの確立は、企業にとっても重要な社会的責任の一つです。日本ユニシスグループでは、これまで育児休職や勤務時間の短

縮、在宅勤務など、仕事と子育ての両立をめざす社員をバックアップするさまざまな制度の改良を進め、子育てに関わる社員の働きやすさを向上させてきました。

今後もさまざまなライフステージにおける働きやすい環境の整備や風土づくりを進めていきます。

TOPICS

「育児休職者情報交換会」を開催

2011年1月20日、日本ユニシスグループの育児休職中の社員が集まり、初の「育児休職者情報交換会」が開催されました。小さなお子さん連れでしたので、会社内とは思えない賑やかな光景となりました。

情報交換会では、人事担当役員やCSR推進部長から「社員のスムーズな職場復帰を会社として支援したい」と



いうメッセージが伝えられた後、育児休職から復帰した先輩社員から体験談が披露されました。また、質問タイムでは、保育園の送迎や子どもが病気になっ

た時の対処、育児時間の利用状況などについて質問がされました。

育児休職中の社員からは「また、ぜひ、このような会を開催してほしい」と好評で、また先輩社員からも「同じような立場の社員のライフスタイルを聞いて参考になった」という声があがりました。育児休職中の社員にとっては、職場の同僚や上司との再会の場にもなり、復帰への足がかりとなる一日となったようです。

参加者の声

- “育児休職中はいろいろ不安を抱えていましたが、みなさんも同じだとわかり気持ちが楽になりました。”
- “先輩と同じように育児休職中の方々とお話ができて、間近に迫った職場復帰に関する貴重なアドバイスをいただき、励みになりました。”

制度利用者から

営業が20日間の育児休職を取得

「営業職の男性社員」として、初めて育児休職を取得しました。一度利用したい制度だったこと、二人目が誕生して、妻一人では大変ということもあり、生後2カ月の時に20日間取得しました。

当時は、お客さまの大規模開発プロジェクトが本格稼働直前という大変な時期。しかし、ほかの営業やSEも多人数で対応していたので、みなさんが協力して快く送り出してくださいました。休職中にもeメールを確認していましたが、連絡が入ることはなく、お客さまを含めたプロジェクトの方々への配慮には本当に感謝しています。

休職期間中は2歳7カ月になる上の子どもの世話と家

事を行い、かつ第二子の育児も手伝いました。複数の子どもをもつ母であり、妻であることの大変さが分かり、改めて感謝するとともに、夫婦で子育てをする大切さを実感しました。育児ストレスを感じながら夫婦が24時間向き合うことは、家族のあり方と働き方を考える良い機会だったと思います。



古賀 和彦

金融第一事業部 営業四部
関西保険グループ



お客さまからいただく「手厚く熱心なサポートをありがとう」という言葉がとても嬉しいです。「もっと喜んでいただくためには、何をしたらいいだろう」と考えるのが、大きな原動力になります。

日本ユニシス・エクセリュションズ(株) 末永 あゆみ

自分が作成に携わったシステムがお客さまに活用いただけていると実感した時、また修正した部分が正常に機能していると確認できた時などに「動きがいい」を感じます。

(株)国際システム 赤嶺 香織

